

「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 30)



メロン・ハウス半促成栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

メロンの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、ハウス半促成とトンネル栽培に分けられています。ハウス半促成栽培における化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量（窒素成分量）は、表1のとおりです。



▲ 収穫間近のメロン果実

表1 メロン・ハウス半促成栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成23年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥
半促成	15(14)	7	1,600	600	400	2,000

注) 上限量のカッコ内は購入苗の場合

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

認証基準となる化学合成農薬使用回数で防除を行うためには、問題となる菌核病、うどんこ病、つる枯病、ハダニ類、アブラムシ類などの発生消長の観察による適期防除が重要です。加えて、病虫害の発生しにくい環境を作るなど、耕種的防除を心がけます。

表2 メロン・半促成栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10aあたり使用量 (希釈倍数等)	対象病害虫	備考
	土壌消毒	クロールピクリン	1穴あたり2~3mL	黒点根腐病	必要に応じて使用
2月中旬	播種	オーソサイド水和剤80	800倍	苗立枯病	必要に応じて使用
3月上旬	育苗期	ダコニール1000	1,000倍	うどんこ病、つる枯病	
3月中旬	定植	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	アブラムシ類	
3月下旬	整枝・誘引	ダコニール1000	1,000倍	うどんこ病、つる枯病	
4月上旬		ロブラール水和剤	1,000倍	菌核病、つる枯病	
		ベルコート水和剤	1,000倍	うどんこ病、つる枯病	
4月中旬	交配				
4月下旬	摘果・整枝	※コロマイト乳剤	1,000倍	ハダニ類	
		ロブラール水和剤	1,000倍	菌核病、つる枯病	
5月上旬	整枝	※イオウフロアブル	500~1,000倍	うどんこ病	発生に応じて使用
		アドマイヤー水和剤	2,000倍	アブラムシ類	
5月中旬	整枝	ピラニカEW	2,000~3,000倍	ハダニ類	発生に応じて使用
		ベルコート水和剤	1,000倍	うどんこ病、つる枯病	
5月下旬		ダニサラバフロアブル	1,000倍	ハダニ類	
6月上旬	整枝	※イオウフロアブル	500~1,000倍	うどんこ病	発生に応じて使用
		トリフミン水和剤	3,000倍	うどんこ病、陥没病	必要に応じて使用
6月中旬	収穫				

注) ※印は、「ちばエコ農業」における化学合成農薬に含めない農薬

A ほ場準備と育苗期 ~育苗時は防虫網で殺虫剤を減らす~

●防虫網で害虫の侵入を防止する

育苗ハウス内及び栽培ハウス内の開口部に防虫網を展張し、アブラムシ類などの害虫の侵入を防止するとともに、ホリバーなど誘引粘着板を設置します。

●育苗床は、ハウス外も含めて清潔にする

ハダニ類が寄生しやすいブドウや茶樹、雑草等は除去し、鉢植えや花苗などは育苗ハウス内に置かないようにします。



▲育苗施設の環境改善

B 定植から整枝作業期 ~観察による病害虫発生の把握と効率的な農薬散布~

●定植時には粒剤を施用する

有翅アブラムシ類などの侵入があっても、定植時にアドマイヤー1粒剤などを植え穴処理しておけば、交配前まで防除できます。

害虫は、発生初期に駆除すれば、農薬の使用回数を減らすことができます。ただし、葉裏まで十分に薬剤が付着するように、丁寧に散布します。

●整枝作業などの機会に葉裏をよく観察する

換気、整枝作業を始めると、アブラムシ類、ハダニ類が寄生し始めます。定期的な農薬散布でこれらを完全に防除することは、農薬の使用回数に制限のあるちばエコ農業では困難です。病害虫の発生に合わせて、対象病害虫に適した農薬だけを発生密度に応じて使用し、余計な農薬使用を避けます。

●殺菌剤は予防的に散布する

病害は、低密度でも発生していると、天候次第では致命的な被害をもたらすことがあるため、予防的に定期散布します。

●「化学合成農薬に含めない農薬」を活用する

イオウフロアブルはうどんこ病への予防的効果、コロマイト乳剤はハダニ類の殺虫効果があります。これらは、ちばエコ農業における「化学合成農薬に含めない農薬」に該当します。メロンでは、1作当たりコロマイト乳剤は2回までの使用が可能です。

C 交配開始から幼果肥大期 ～ミツバチ放飼直前の徹底防除～

●ミツバチ放飼の直前に問題となる病害虫を徹底防除する

交配から幼果肥大期は、ミツバチの訪花活動や果実外観に影響するため、農薬散布ができないので、病害虫発生が最も危惧される時期です。病害を低密度でも残さないように、ベルコート水和剤などで徹底防除します。ベルコート水和剤は、多くの病害に対して高い防除効果をもつ接触型の予防薬剤です。また、日照が少ない時期に花梗部から菌核病が発病することが多いので、開花後はなるべく早くしおれた花卉を除去し、ハウス内を換気するとともにロブラール水和剤を散布します。ロブラール水和剤は、菌核病やつる枯病に対し、効果の持続が長く、優れた予防効果を発揮します。



▲ 交配期のメロン着果枝

D 果実肥大期から収穫期 ～果実への影響を考慮した防除～

●摘果、整枝の機会に葉裏を観察し、使用農薬を決定する

播種から3か月以上を経ているこの時期には、栽培基準を達成するための農薬使用回数に残りわずかとなっている時期のため、農薬の使用に充分注意する必要があります。子づる先端に残した遊びづるが繁茂するようなら、早めに摘心や整枝をしておきます。

●果実への影響を考慮して防除する

出荷が近づいてくるため、初期発生 of 病害虫は、果実への被害を予想しながら、農薬を使用するかしないかを判断します。果実に発生する陥没病を防ぐためには、収穫の数日前にトリフミン水和剤を散布すると効果的です。



▲ 収穫期に繁茂する茎葉

2 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。堆肥による土づくりに加えて、有機質肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

なお、表3の施肥例は主要農作物等施肥基準（平成21年、千葉県）の施肥量に準じていますが、各ほ場の施肥量は土壌診断に基づいて決めます。

また、登録名称内に「有機」などの文字が記載された肥料であっても、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

表3 メロン・半促成栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみがら堆肥				1,600			
基肥	ダブルパワー	10(10)	13	10	60	6.0(6)	7.8	6.0
	菜種粕	5.3	2.0	1.0	100	5.3(0)	2.0	1.0
	苦土石灰				100			
総施用量						11.3(6)	9.8	7.0

注) () 内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料使用例は、平成21年度現地実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。
なお、栽培基準は平成23年4月改訂後のものを記載しています。

●著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
●編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
●発行年月日 平成23年11月
■内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センターTEL. 0479(57)4150
※令和元年6月変更



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

CHIBAちば